



生活経済ジャーナリスト
和泉昭子

日本FP協会CFP認定者。近著に「自分で作る理想の年金～これで安心！女性(あなた)のセカンドライフ」(法学書院)

OL economic terms 経済用語事典

景気回復!? その指標となるGDPとは?

今年に入って景気は回復傾向にあるといわれるが、景気の状態を見る主な指標に「経済成長率」がある。経済成長率とは、国全体の豊かさが前年に比べてどれだけ増したかを示す数字で、具体的には「GDP(Gross Domestic Product)＝国内総生産」の伸び率で表される。

GDPは、1年間に国内で生産された商品やサービスの総額のこと。生産という言葉がピンとこなければ、国内で使われたお金の合計といえば分かりやすいだろうか。例えば、家族4人で夕食して8000円支払うと、GDPに計算される。これに対して、自宅で料理して食べた場合は、食材の費

用がGDPにカウントされる。食材の費用が1人500円なら、合計2000円分がGDPに計算されるわけだ。ただし、料理をした家事労働はGDPに含まれない。

「あれっ? それってGNPじゃないの」と思う人もいるかもしれない。10年ほど前までは、経済動向を測るメインの指標として、「GNP(Gross National Product)＝国民総生産」が使われていたからだ。

GNPは、日本人や日本の企業が生産した商品やサービスの総額のこと。海外の日本企業や日本人が生産した分は入るが、日本国内の外国企業の分は含まれない。つまり、大リーグで活躍する松井

選手やイチロー選手が稼ぐお金はGDPには含まれないが、GNPにはカウントされるというわけだ。これからの時代、日本人や日本企業が海外に進出するケースはますます増える。それなのにこれらを計算に入れていては、国内の経済活動の実態を正確に把握することにはならない。そこで、日本人とか外国人といった区別をせず、日本国内でどれだけのお金が使われたかを計算しようということで、GDPが採用されるようになった。

日本のGDPは、年間501兆3507億円(2003年度内閣府調べ)。この中には、私たちが働いて新しく生み出した価値も含まれているのだ。

▶この記事に関する意見・問い合わせ シティ編集部☎03(5208)4520